

## ◎土佐清水市の遍路道整備！「高知家遍路道プロジェクト」

### CF(クラウドファンディング)型ふるさと納税で費用調達

昨年度、土佐清水市教育委員会生涯学習課は、真念庵の市指定史跡に認定、落慶法要の支援活動や真念庵案内大看板の設置などの支援活動を推進し、地元市野瀬地区に寄り添いながら遍路文化の醸成と保存について積極的に取り組んできました。

また、県土木や地区の同意と許可を粘り強く取り付けながら、あしずり遍路道保存会と協力し、市単独で「四県統一の遍路道案内看板」を21カ所設置しました。嬉しいことにその取り組みを追認するかのようになり、市内「真念庵周辺」と「以布利～窪津間」の遍路道が文化庁より、「日本歴史の道百選」に選定されました。

今年度、県補助金をCF(クラウドファンディング)型ふるさと納税で資金を募り、市域の遍路道の保全活動を進めていく「高知家遍路道プロジェクト」が実施されることになりました。募金は11月3日まで行われ、目標金額が100万円となっています。

谷筋を渡る木橋が破損していたり、傾斜地に設置されたロープや杭が切れたり、流されている箇所が複数あります。あしずり遍路道保存会や遍路道沿いの集落と連携・協力して整備していくつもりです。

四国内の他県でも同様の取り組みはなされておりますが、資金調達に苦労しているようです。水害や新型コロナウイルスなどの天災や疫病が蔓延する現状があります。このような時だからこそ、この取り組みがより輝いていくと思います。どうかこの取り組みを見守ってください。

“ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディング「高知家」遍路道プロジェクト”  
(<https://www.furusato-tax.jp/gcf/943>) を参照。8月16日現在13/100万円です。

## 「市史執筆のブレイクタイム(8)」土佐清水市域を測量した伊能忠敬

伊能忠敬(1745—1818)は、近世後期の傑出した地図学者である。商人から後に幕臣となり、江戸を拠点に活躍した。日本初の実測による詳細かつ正確な日本全図及び地方図を多数作成し、それをもとに「大日本沿岸輿地全図」を完成させた①。

上総国小関村(千葉県九十九里町)に名主の子として生まれ、その近隣の地で育った。18歳の時、佐原(千葉県在原市)の酒造家の伊能家に婿入りした。酒造業の他に、運送業、薪・米穀の売買、金融



業も営み、事業成功して 50 歳で隠居した。51 歳で江戸に出て、天文暦学を学び始めた。丁度この年に、西洋の暦法に通じていた 17 歳年下の幕府天文方・高橋至時（1764—1804）を師事した②。

伊能忠敬の傑出していた点は、理論に偏らない実行力があつたことである。寛政 12 年（1800）、56 歳の時に地球の大きさを知るために経度一度の距離を実測することを思い立ち、それを第一次測量の過程で実施した。測定結果（28.2 里）は、フランスのそれ（1792—1798 測定）と同じであることを示した。このように距離を正しく示した大縮尺図が調査ごとにまとめられて作成されたことが評価され、享和 3 年（1803）、60 歳で幕臣に取り立てられた③。

文化 14 年（1815）、71 歳で「大日本沿岸輿地全図」作成の幕命が下る。以後は自宅に設けた地図御用所にて下役・内弟子らと共にその調製に従事した。その途上、文政元年（1818）、74 歳で逝去し、その 3 年後の文政 4 年（1821）に「大日本沿岸輿地全図」がついに完成した。この図は、日本や東洋地図史上画期的なものであり、明治時代に入っても日本地図はこの図に依拠して作成されたほどであった④。

### 「大日本沿岸輿地全図」を作成するため実測した第 1 次～第 10 次にわたる測量場所・時期

第 1 次測量・蝦夷地（北海道）・・・【寛政 12 年（1800）4 月 19 日～10 月 21 日まで】

第 2 次測量・伊豆から房総半島、常陸から陸奥・・・【享和元年（1801）4 月 2 日～6 月 21 日まで】

第 3 次測量・東北日本海沿岸・・・【享和 3 年（1803）6 月 3 日～10 月 23 日まで】

第 4 次測量・駿河から尾張、越前から越後・・・【享和 3 年（1803）2 月 18 日～10 月 7 日まで】

第 5 次測量・東海道から近畿、山陽・山陰・・・【文化 2 年（1805）2 月 25 日～文化 3 年（1806）11 月 15 日まで】

第 6 次測量・四国、大和路・・・【文化 5 年（1808）1 月 25 日～文化 6 年（1809）1 月 18 日まで】

第 7 次測量・九州の東南部沿岸・・・【文化 6 年（1809）8 月 27 日～文化 8 年（1811）5 月 8 日まで】

第 8 次測量・九州の残りの沿岸、離島・・・【文化 8 年（1811）11 月 25 日～文化 11 年（1814）5 月 22 日まで】

第 9 次測量・伊豆七島・・・【文化 12 年（1815）4 月 27 日～文化 13 年（1816）4 月 12 日まで】

第 10 次測量・江戸府内・・・【文化 12 年（1815）2 月 3 日～2 月 19 日まで】

### 土佐清水市域での測量調査

伊能忠敬ら測量隊は、第六次測量にて文化 5 年（1808）5 月 30 日から 6 月 20 日までの 9 日間、土佐清水市域で測量を実施した。『伊能忠敬測量日記第十二巻』の記述からこの間に「宿泊日」「場所」「本陣と脇宿（別宿）」を転記する。

5 月 30 日	下茅浦（下ノ加江浦）	本陣・大庄屋岡村益平 / 脇宿・館屋嘉兵衛
6 月 1 日	窪津浦	本陣・海蔵院 / 脇宿・百姓仁兵衛
2 日	伊佐浦	本陣・嘉宝坊 / 脇宿・隆蔵坊
3 日	清水浦	本陣・庄屋浜田乙治郎 / 脇宿・大黒屋貞右衛門
4 日	清水浦	本陣・庄屋浜田乙治郎 / 脇宿・大黒屋貞右衛門
5 日	三崎浦	本陣・庄屋代中村伝五右衛門 / 脇宿・医師泥谷孝達
6 日	三崎浦	本陣・庄屋代中村伝五右衛門 / 脇宿・医師泥谷孝達
7 日	下川口浦	本陣・升屋亀之助 / 別宿・庄屋佐井弥四郎
8 日	大津浦	本陣・庄屋代上岡弁之丞 / 別宿・栗津屋直兵衛

### 註

①岡田俊裕『日本地理学人物事典〔近世編〕』原書房、2011 年、141—150 頁。

②①に同じ。

③①に同じ。

④①に同じ。